

# はじめに

東日本大震災以降、国・県では新たな津波浸水想定を発表しました。串本町では地震・津波による被害を最小限にするため、全力で対策を進めております。しかし、行政がどれだけ頑張っても地震・津波を防ぐことはできません。そこで町民の皆さま一人ひとりが最初に避難行動をとる「率先避難者」になっていただきたいのです。皆さまの協力無くしては、さまざまな施策を進め充実させていくことは困難です。地震・津波が発生した際には少しでも被害を減らし全ての町民の命を救うため、釜石の奇跡ならぬ「串本の奇跡」を一丸となって起こしましょう。

この津波ハザードマップは、「南海トラフ巨大地震」「東海・東南海・南海3連動地震」に備えるために津波浸水想定・津波到達予想時間・避難場所・避難所などをまとめたものです。自宅・学校・職場などから最寄りの避難場所はどこかを確認していただき、大切に保管し家庭や地域内での取り組みに活用いただければ幸いです。

**決してあきらめることなく！ 1秒でも早く！ 1mでも高く！**

## 目次

はじめに	P.1	～南海トラフ巨大地震によるハザードマップ～	
震度と揺れの状況	P.2	和深	P.9-10
津波警報等について	P.3	安指・田子	P.11-12
被害を軽減するために	P.4	江田・田並	P.13-14
3連動地震浸水想定	P.5	有田・高富(西側)	P.15-16
南海トラフ巨大地震浸水想定	P.7	高富(東側)・二色	P.17-18
		鬮野川・サンゴ台	
		袋・串本	P.19
		大水崎・鬮野川(東側)	P.20
		潮岬(西側)	P.21-22
		潮岬(東側)・出雲	P.23-24
公共施設等の所在・南海トラフ巨大地震の予想浸水深	P.42	大島	P.25-26
		須江	P.27-28
		櫻野	P.29-30
		姫・伊串・目津大浦	P.31-32
		神野川・西向・古田	P.33-34
		中湊・古座・津荷・上野山	P.35-36
		古座ヴィラ・田原	P.37-38
		上田原・佐部	P.39-40
		田原(荒船)	P.41

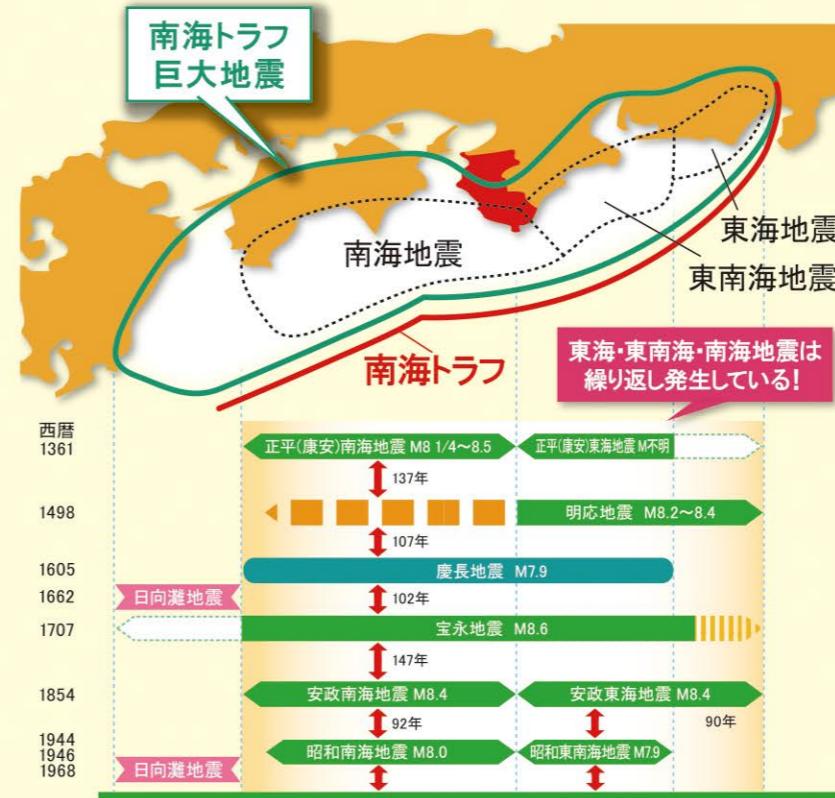
## 津波てんでんこ

度々津波の被害を受けてきた三陸地方では、「津波てんでんこ(大きな地震が来たら、肉親にも構わずに各自てんでんばらばらに一人てんでんこに逃げろ、自分の命は自分で守れ)」という伝承により、津波来襲時には家族を助けに行ったり物を取りに行ったり避難が遅れ命を落としてはいけない、ということ伝えてきました。これは、他人を無視した自分本位の行動ではありません。それぞれが正しい判断で避難できること、つまりお互いの信頼を前提に、肉親を探しに行ったりせず各自が真っ先に

避難せよ、という教えです。今回の震災(東日本大震災)でも家族の教えに従って迅速に避難したり、てんでんこの教えを守って親子がそれぞれ別々に避難行動をとり助かった事例もありました。こうした避難行動には、津波災害では家族の安否を確認する間にも命の危険が迫ることを理解し、いざという時にそれぞれが命を守るにはどう行動すれば良いのか、事前に十分に話し合っておく必要があります。

(「気象業務はいま2012 気象庁」より)

## ●南海トラフ地震の震源域と発生状況



## 南海トラフの地震の長期評価

地震規模	M8~9クラス
30年以内の発生確率	70~80%程度

平成31年1月現在(地震調査研究推進本部発表)

## 最大クラス(M9.1)の地震は...

- 過去数千年間に発生したことを示す記録は見つかっていない。
- 繰り返し起きていた大地震(南海地震等)に比べ、発生頻度は一桁以上低いと考えられる。

## 緊急地震速報

地震による強い揺れを、揺れが始まる前にお知らせする「緊急地震速報」が提供されます。「緊急地震速報」は、最大震度が5弱以上と予想された場合に、震度4以上の揺れが予想される地域名称などを報道機関や通信事業者から皆さまに伝えられます。この「緊急地震速報」を見聞きしてから数秒~数十秒後に強い揺れが始まりますので、この間に身を守るための行動をとる必要があります。ただし、震源域に近い地域では「緊急地震速報」が強い揺れに間に合わないことがあります。

**周囲の状況に応じて、あわてずに身の安全を確保しましょう!**



## ●震度と揺れの状況

### 震度4



- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

### 震度5弱



- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

### 震度5強



- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

### 震度6弱



- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。

### 震度6強



- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

### 震度7



- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。